

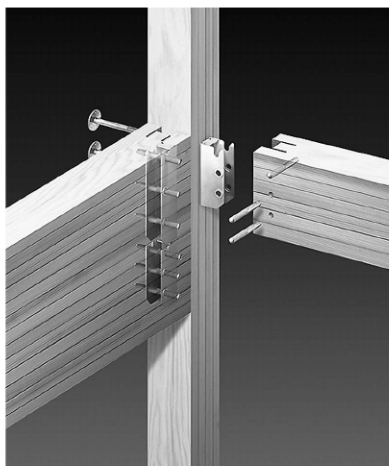
# 「プレセッターSU」の使用範囲拡大

## 非住宅で採用増、住宅でも再脚光

### BXカネシン

BXカネシン（東京都、二村一久社長）は、金物工法「プレセッターSU」の使用範囲を拡大する取り組みを進めている。

同社がMP（Multi Purpose、1SUの3個使いで梁多目的）木造として推進する非住宅分野で、可能なほか、CLT壁



複数使いもでき、住宅、非住宅の垣根なく使用することができる（「プレセッターSU」）

使いやすい環境を整備し利用を促すことで、制作金物の点数を減らし、建設コストの低減につなげる狙いがある。現在では、プレセッターSUの3個使いで梁1200mmまで対応可能なほか、CLT壁パネルへの取り付けにも対応できる。CLT壁パネル用として新たにPS-45SU、PS-60SUを追加。梁成1055・900mmに使用できる。

また、文化シャッターを中心とするBXグループである強みを生かし、住宅、店舗、ガレージ、倉庫などでプレセッターSUを使用した時の軽量シャッターの納まりマニュアルを同社ホームページで公開している。こうした取り組みにより、日刊木材新聞社、同社が昨年11月に開

などに用いられるなど、採用実績も積み上がってきた。

さらに、中規模木造建築市場の拡大や、住宅分野での4号特例縮小の流れから、高耐力の柱脚金物需要が拡大している。

既に「高耐力柱脚金物75」を発売しているほか、高強度の耐力壁を狭小幅で可能にする柱脚金物「ベースセッター」の採用も伸びてきた。同社では現在、こうした取り組みの集大成として木造で自社の試験センターを建設中だ。

一方、住宅分野では「プレセッターSUへの関心が再び高まっている」という手応えだ（同社）という。

同社は「職人不足を背景に、金物工法が省

催したプレセッターSUのオンラインセミナーには「特に新しい製う関心や、建設費が上昇するなかでコストメリットを出せるのではないかと期待があるのではないか」と捉えている。

出典元：「「プレセッターSU」の使用範囲拡大」  
日刊木材新聞、2024年3月19日、5ページ